美濃帯南部坂祝セクションにおけるトリアス紀層状チャートの連続層序記録

Continuous stratigraphic record of Triassic bedded chert along the Sakahogi section, in the Mino Terrane, central Japan

二階堂 崇 [1]; 松岡 篤 [2]
Takashi Nikaido[1]; Atsushi Matsuoka[2]

[1] 新潟大・院・自然科学; [2] 新潟大・理・地質科学
[1] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ.; [2] Dept.Geology, Niigata Univ

坂祝セクションは坂祝駅の南南西 500 m に位置し，木曽川右岸に面する．セクション中には犬山地域の CH-２に相当する層状チャートが分布し，走向は N 30 °- 40 °W，傾斜はほぼ垂直で，西側上位である．色の変化は赤・緑のほかに黄・紫・褐色などが見られる．野外において単層の厚さを計測しながら１:10 の岩相柱状図を作成した．今回示す柱状図は層厚で 54 m 分に相当し，岩相的に下・中・上部の３つに分けられる．

下部 21 m の層位範囲では赤色の層状チャートが観察される．厚さ 4-8 cm のチャート層と，厚さ 5-10 mm の珪質粘土岩層が明瞭な互層をなしている．上位ほどチャート層の厚さが不規則になる．比較的追跡しやすい白色のチャート層が５層観察される．

中部 21 m の層位範囲では，緑灰色の層状チャートが卓越する．珪質粘土岩層のはさみが薄く，癒着しているのが特徴である．チャート内部では，赤色部と緑色部がなす帯状の構造が広く見られるが，これらは互いに漸移し，側方への連続性には乏しい．ストライプ状構造をもつチャートが観察される層準がある．この構造はチャートの色が変化しても識別が可能であり，側方への連続性も非常に良い．現在このような堆積構造をもつチャート層を 10 層準以上で確認している．観察される頻度は下位から中位へ向かって増え，逆に中位から上位へ向かって減るという傾向にある．下部で見られたような赤色の層状チャートも，層位範囲 1.5 m ほどのものが２層準で観察される．側方へよく連続する，層位範囲 40 cm ほどの珪質粘土岩層が２層識別される．これらは先行研究により，下位より CS-１，CS-２と呼ばれたものである．比較的追跡しやすい白色のチャート層が 10 層観察される．

上部 12 m の層位範囲では，赤色の層状チャートと褐灰色の層状チャートが交互に出現する．赤色の層状チャートは，前述の下部で見られたような，チャート層の厚さが不安定なタイプである．また，褐灰色のチャートは珪質粘土岩層のはさみが薄く癒着しており，赤色部と褐色部がなす帯状の構造は，側方への連続性に乏しい．この岩相は中部に卓越する緑灰色層状チャートに対応するものと考えられる．下位では赤色の層状チャートが卓越し，その上位に褐灰色の層状チャートが見られる．そして再び赤色の層状チャートが卓越する．比較的追跡しやすい白色のチャート層が３層観察される．

放散虫化石に関する先行研究が明らかにした坂祝セクションの年代は，中部トリアス系〜下部ジュラ系である．坂祝セクションは，その岩相的連続性から，各種の層序学的検討に最適なセクションと言える．